

エージェンシー育成に繋がるキャリア教育の考察
ーキャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象としてー

杉 本 あゆみ

研究論文

エージェンシー育成に繋がるキャリア教育の考察 ーキャリア育成学科介護福祉コースの学生を対象としてー

杉本 あゆみ

はじめに

2015（平成27）年より、経済協力開発機構（Organisation for Economic Co-operation and Development：以下、OECD）が進めている「Education2030 プロジェクト」にある、「エージェンシー（Agency）」は重要なキーワードと位置付けられ、これからの予測不可能な時代を生き抜くために身に付けるべき能力として注目されている概念である。これからの時代は、より複雑性が高く、何が起こるのか誰も予想できない「VUCA 時代【Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語】」であると言われている。このVUCA時代を力強く生き抜くためには、自らが高い意識を持って積極的に行動を起こせる力が不可欠であり、そのような能力を表す概念として「エージェンシー」が挙げられている。本稿では、この「エージェンシー」を、いかに学生に身に付けさせるかを探求するべく、キャリア育成学科介護福祉コース所属学生（初年次学生）を対象に実践したキャリア教育科目について考察する。

1. エージェンシー概念

2019（令和元）年5月に発表されたOECD（2019）では、「エージェンシー（Agency）」について、「Student Agency」と「Co-Agency」の2つの概念より説明が成されており、「Student Agency」は「Student agency is defined as the capacity to set a goal, reflect and act responsibly to effect change（変化をもたらすために自分自身で目標を設定し、内省し、責任を持って行動する能力）」⁽¹⁾と、「Co-Agency」は「Co-agency is defined as interactive, mutually supportive relationships-with parents, teachers, the community, and with each other- that help students progress towards their shared goals.（保護者、教師、地域社会それぞれが学生と関わり合い共通の目標へ向かって前進するのを助ける相互作用的な関係）」⁽²⁾と定義されている。また、「Agency」は文化によってその捉え方は様々である⁽³⁾、とも述べられている。

2020年3月に文部科学省から公開された、『OECD Learning Compass 2030 仮訳』⁽⁴⁾によれば、エージェンシーを身に付けるための学修方法として、見通し（Anticipation）→行動（Action）→振り返り（Reflection）という、「AAR サイクル」を推奨し、「学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセス」としている。

本研究では、上記の「AAR サイクル」を参考に、授業開始前に学生自らが学修目標を定め、その目標を達成できるように学修計画を立て、授業内外で学修を実践し、実践した学修内容を振り返り、協働で評価し合い新しい気づきを得て次の経験に活かす、を1サイクルとした「経験学修サイクル」を複数回繰り返す。この「協働評価学修を取り入れた経験学修サイクル」の繰り返しが、学生のエージェンシー育成に繋がるのではないかという仮説を立て、これを実証すべく、キャリア教育関連科目「キャリアデザインⅠ」授業内で、協働評価学修を取り入れた経験学修サイクルを試み、その効果を受講学生自身の自己評価や、事前事後に実施した記述式アンケート調査の結果分析で検証することとした。

2. 社会人基礎力

2006年に経済産業省により提唱された「社会人基礎力」⁽⁵⁾は、2018年に『人生100年時代』や『第四次産業革命』などの社会状況を踏まえて再定義され、現在に至るまでさまざまな企業研修や採用基準などに活用されている概念である。「社会人基礎力」に含まれる3つの能力と12の能力要素、それぞれの詳細について、以下に表す。

3つの能力と12の能力要素

(1) 前に踏み出す力（アクション）

一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力とされる。自分から動き、自分から他者に働きかける、自分で決めたことをやり抜くなど、「主体的な行動」がポイントとなる。

<能力要素>

- ・主体性→物事に進んで取り組む力
- ・働きかけ力→他人に働きかけ巻き込む力
- ・実行力→目的を設定し確実に行動する力

(2) 考え抜く力（シンキング）

疑問を持ち、考え抜く力であるとされる。理想の姿を描き、現状を認識し、乗り越えなければならない障害を克服する過程をこれからの実行計画に落とし込む力である。

<能力要素>

- ・課題発見力→現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- ・計画力→課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- ・創造力→新しい価値を生み出す力

(3) チームで働く力（チームワーク）

多様な人々と、目標に向けて協力できる力とされる。同じ目的や目標に向かう協働チームにおけるメンバーと成り得る能力とも理解できる。

<能力要素>

- ・発信力→自分の意見をわかりやすく伝える力
- ・傾聴力→相手の意見を丁寧に聴く力

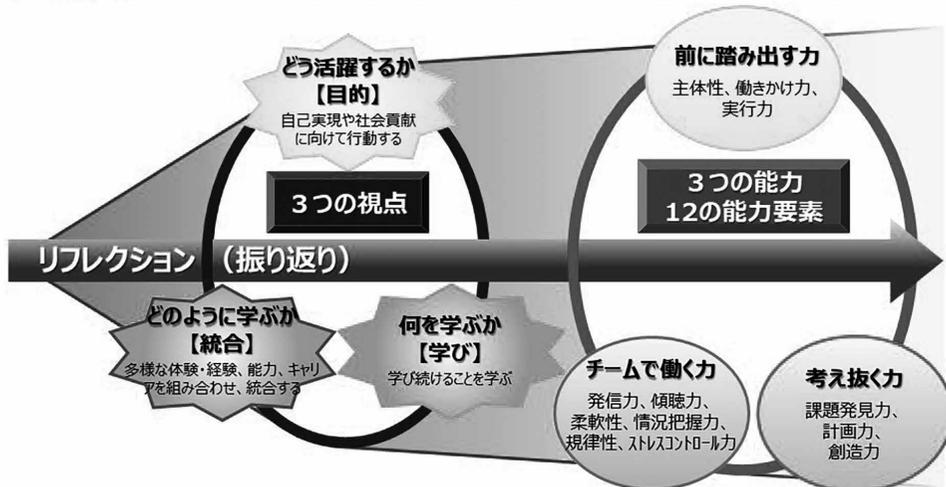
- ・柔軟性→意見の違いや立場の違いを理解する力
- ・状況把握力→自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- ・規律性→社会のルールや人との約束を守る力
- ・ストレスコントロール力→ストレスの発生源に対応する力

上記の「社会人基礎力」は、これからのVUCA時代を踏まえて再定義され、そこではリフレクション（内省）を通じて、以下の(1)から(3)のバランスを図ることが、自らキャリアを切り拓いていく上で重要だとしている。

- (1) どう活躍するのか（目的）→自己実現や社会貢献に向けて行動する
- (2) 何を学ぶか（学び）→学び続けることを学ぶ
- (3) どのように学ぶか（統合）→多様な体験・経験、能力、キャリアを組み合わせる

「人生100年時代の社会人基礎力」とは

「人生100年時代の社会人基礎力」は、これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関わりの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力と定義され、社会人基礎力の3つの能力/12の能力要素を内容としつつ、能力を発揮するにあたって、自己を認識してリフレクション（振り返り）しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要と位置付けられる。



METI/ 経済産業省ホームページより引用
<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>

本稿で注目している「エージェンシー」概念は、社会人基礎力に含まれる「前に踏み出す力（アクション）」と関連性の高い能力と考えた。従って本調査では、エージェンシー測定尺度として社会人基礎力（主に「前に踏み出す力（アクション）」）を採用することとした。測定方法は、事前、事後で受講学生に自身の社会人基礎力がどの程度身に付いているのかをポイント形式で自己評価（12の能力要素について各5ポイント満点で評価）させ（表1）、その結果については能力毎平均値に検定処理を施すこととした。

表 1 社会人基礎力自己評価シート

・主体性（物事に進んで取り組む力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・働きかけ力（他人に働きかけ巻き込む力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・実行力（目的を設定し確実に行動する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・課題発見力（現状を分析し、目的や課題を明らかにする力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・計画力（課題解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・創造力（新しい価値を生み出す力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・柔軟性（意見の違いや立場の違いを理解する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・状況把握力（自分と周囲の人々との関係性を理解する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・規律性（社会のルールや人との約束を守る力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0
・ストレスコントロール力（ストレス発生源に対応する力）	5 … 4 … 3 … 2 … 1 … 0

3. 調査内容

本研究で実施した調査については、以下のとおりである。

3. 1 調査概略

2024年度前期必修科目「キャリアデザインⅠ」において、協働評価学修、経験学修サイクルを実践し、その効果については、社会人基礎力自己評価ポイントと事後アンケート記述内容を用いて、客観的尺度と主観的尺度の両側面から測定、分析する。

3. 2 調査対象

2024年度前期必修科目「キャリアデザインⅠ」受講学生（初年次学生）40名

3. 3 調査時期

2024年4月から7月

3. 4 授業内容

2024年度前期必修科目「キャリアデザインⅠ」の全15回の授業内容は以下である（表2）。

表2 2024年度前期必修科目「キャリアデザインⅠ」15回授業内容

回数	学修内容	課題
1	授業ガイダンス、キャリアデザインの必要性について考える	【経験学修サイクルの実践】 初回授業で目標（主に社会人基礎力に関連する能力を身に付けるもの）を立て、目標に沿った、普段の生活における自身の学修計画を立てる 各授業内では、普段の生活における自身の学修を振り返り、どのような体験から、どのような学びを得たかを記述（可視化）する時間を設ける
2	お金に関する知識を身に付ける 事前社会人基礎力自己評価	
3	未来のお金に関する理解を深める	
4	ファイナンシャルDVD視聴 世の中の職業について理解を深める	
5	社会で求められている人材について考える コミュニケーション力について理解を深める	
6	企業分析① SPIテスト	
7	企業分析② SPIテスト解説	
8	自己分析の必要性について理解する 性格テスト（エゴグラム） SPIテスト解説	
9	自己分析①過去を振り返る	
10	自己分析②自己アピール文を250字程度で書く①	
11	自己分析③自己アピール文を250字程度で書く②	
12	自己分析④自分POPの作成	
13	先輩の経験から学ぶ 介護福祉系希望者の自己PR文の書き方	
14	人生設計【キャリアプランニング】 5年後、10年後、20年後の自分をイメージする 事後社会人基礎力自己評価	
15	学修の振り返り 自身の学びを振り返って文章化する	

3. 5 協働評価学修を含んだ経験学修サイクルの実践方法

授業開始前に学生自身が科目学修目標を定める時間を設け、同時に、その目標を達成できるように学修計画を立てるよう促す。授業内外で自身が立てた学修計画を実践し、次回授業内で実践した学修内容を振り返る時間と、クラスメイトと協働で情報共有し評価し合う時間を設ける。そこで得た新しい気づきを文章化（可視化）し、何らかの教訓を得て次の経験に活かす、を1サイクルとした「経験学修サイクル」を複数回繰り返すこととした。

3. 6 事後アンケート内容

最終授業で実施した事後記述式アンケート内容は以下である（表3）。

表3 事後アンケートフォーム

キャリアデザインⅠ事後アンケート	
学籍番号：	氏名：
この科目の授業を通じて、どのような知識、技能が身につきましたか。	
<input type="text"/>	
授業で身に付けた知識、技能を、今後、どこでどのように活用しようと考えていますか。	
<input type="text"/>	
授業開始時の学修計画通りに進めることができましたか。どのあたりが上手く進められ、どのあたりが上手くいきませんでしたか。	
<input type="text"/>	
授業開始時の目標は、どのくらい達成できましたか。	
<input type="text"/>	
そのように答えた理由を教えてください。	
<input type="text"/>	
授業を通じて自主的に学ぶ力が身についたと考えますか。理由とともに述べてください。	
<input type="text"/>	

4. 調査結果

本調査の結果は、以下のとおりである（表4、表5、表6）。

表4 社会人基礎力結果

n = 31

3つの能力/12の能力要素	事前平均値（標準偏差）	事後平均値（標準偏差）	
前に踏み出す力（アクション）			
・主体性	3.23 (0.94)	3.54 (0.87)	※
・働きかけ力	2.84 (1.02)	3.23 (0.87)	※
・実行力	3.23 (0.79)	3.35 (0.86)	
考え抜く力（シンキング）			
・課題発見力	2.84 (1.05)	2.97 (0.97)	
・計画力	2.84 (0.88)	3.10 (0.93)	
・創造力	3.00 (1.05)	3.42 (1.01)	※
チームワークで働く力（チームワーク）			
・発信力	2.61 (1.04)	3.13 (1.13)	※
・傾聴力	3.61 (0.87)	3.52 (0.95)	
・柔軟性	3.39 (0.97)	3.58 (1.07)	
・状況把握力	3.23 (0.91)	3.42 (1.07)	
・規律性	3.87 (0.79)	3.97 (0.93)	
・ストレスコントロール力	3.42 (1.21)	3.45 (1.19)	

* $p < 0.01$

表5 授業前に立てた目標、学修計画（ポイントのみ一部抜粋）

n = 31

【目標（授業で身につけたい力）】	
・コミュニケーション力（話す力、聴く力含む）	15名（48.39%）
・ビジネスマナー等、仕事で活かせる力	10名（32.26%）
・自分に合う働き方を見つける力	6名（19.35%）
【学修計画】	
・授業で学んだことを実生活で積極的に活用して慣れる	12名（38.71%）
・普段から深く自己分析する時間を設ける	8名（25.81%）
・テキスト以外の本を読む	5名（16.13%）
・社会で活かせる資格を取得する勉強に励む	3名（9.68%）
・他人の話を良く聴く時間を持つ	2名（6.45%）
・語彙力が身に付く本を読む	1名（3.23%）

表 6 事後アンケート結果（ポイントのみ一部抜粋）

n = 31

この科目の授業を通じて、どのような知識、技能が身につきましたか。	
・コミュニケーション能力（会話力含む）	12名（38.71%）
・敬語力	8名（25.81%）
・企業で働くにあたって必要な挨拶の仕方、正しいお辞儀の仕方	6名（19.35%）
・自己分析力	5名（16.13%）
授業で身に付けた知識、技能を、今後、どこでどのように活用しようと考えていますか。	
・将来、企業で働く時	18名（58.06%）
・就職活動時	10名（32.26%）
・アルバイト先で接客する時	3名（9.68%）
授業開始時の学修計画通りに進めることができましたか。どのあたりが上手く進められ、どのあたりが上手くいきませんでしたか。（一部抜粋）	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で敬語について学んでも、実際にアルバイト先でスムーズに話すことが出来なかった ・普段の生活でとっさに丁寧な言葉遣いでコミュニケーションを取るの難しいと感じた ・自分が話す内容をあらかじめ考えてから話すとうまく話せることに気づいた 	
授業開始時の目標は、どのくらい達成できましたか。	
・8割以上	16名（51.61%）
・5割程度（半分くらい）	15名（48.39%）
そのように答えた理由を教えてください。（一部抜粋）	
【8割以上】	
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に挨拶できるようになったから ・徐々に敬語が話せるようになったと自覚できるようになったから 	
【5割程度（半分くらい）】	
<ul style="list-style-type: none"> ・頭の中で理解していても、行動に移せず、実際に動ける力は別物なのだと理解したから ・実際には、まだまだスムーズに敬語を話せないから 	
授業を通じて自主的に学ぶ力が身についたと考えますか。理由とともに述べてください。（一部抜粋）	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ知識を忘れることなく、今後も実践して身につけていきたいと思うので、自主性は身についたと思う ・今まで意識していなかった自分の言葉遣いを意識するようになりました ・自分には難しすぎて、まだまだ身につけてはいないと思った 	

5. 考察

授業開始直後と全授業終了時に、表1にある、「社会人基礎力自己評価シート」を使用し、学生自身の社会人基礎力について自己評価を実施し、結果の平均点の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準1%で対応のあるt検定を実施したところ、「前に踏み出す力（アクション）」に含まれる、「主体性」、「働きかけ力」、また、「考え抜く力（シンキング）」

に含まれる、「創造力」、さらに、「チームワークで働く力（チームワーク）」に含まれる、「発信力」において $p < 0.01$ という結果で、その差は有意であることが分かった。それ以外の全ての項目で事前平均値よりも事後平均値の方が高く、これにより、授業によって社会人基礎力の自己評価を高める可能性が認められ、特に、「エージェンシー」に関連性が高いとされる、「前に踏み出す力（アクション）」に含まれる、「主体性」、「働きかけ力」に対する自己評価を高める効果の可能性が統計的に示唆された。ただし、「チームワークで働く力（チームワーク）」に含まれる、「ストレスコントロール力」の事前から事後にかけての伸びが0.03ポイントと低いことや、「考え抜く力」に含まれる、「課題発見力」の自己評価ポイントが他の項目に比べて低く、今後の課題として挙げておく。

授業前に受講学生が各自立てた目標については、「コミュニケーション力（話す力、聴く力含む）」、「ビジネスマナー等、仕事で活かせる力」、「自分に合う働き方を見るける力」と3つに大別され、学修計画については、「授業で学んだことを実生活で積極的に活用して慣れる」など、授業で獲得した新しい知識を実生活の中で活かそうとするものが、4割近くを占めた。

事後アンケートの記述内容については、紙幅の都合上、記述内容のポイントを一部抜粋して表にした（表6）。「この科目の授業を通じて、どのような知識、技能が身につきましたか。」という質問の回答内容は、「コミュニケーション能力（会話力含む）」、「敬語力」、「企業で働くにあたって必要な挨拶の仕方、正しいお辞儀の仕方」、「自己分析力」と4つに大別され、中でも「コミュニケーション能力」に関連する回答が最も多く、4割近い値であった。

「授業で身に付けた知識、技能を、今後、どこでどのように活用しようと考えていますか。」という質問には、「将来、企業で働く時」、「就職活動時」、「アルバイト先で接客する時」と3つに大別され、6割近い受講学生が「将来、企業で働く時」と回答していた。

「授業開始時の学修計画通りに進めることができましたか。どのあたりが上手く進められ、どのあたりが上手くいきませんでしたか。」という質問には、「授業で敬語について学んでも、実際にアルバイト先でスムーズに話すことが出来なかった」、「普段の生活でとっさに丁寧な言葉遣いでコミュニケーションを取るのには難しいと感じた」、「自分が話す内容をあらかじめ考えてから話すとうまく話せることに気づいた」など、「普段の会話」に関する回答が多く見られ、そのほとんどは、「頭の中では理解していても実践に繋げるのは難しいということに気づいた」というものであった。

「授業開始時の目標は、どのくらい達成できましたか。」という質問には、8割以上の数値と5割程度の数値を挙げた受講学生が半々であり、その理由については、8割以上は「積極的に挨拶できるようになったから」、「徐々に敬語が話せるようになったと自覚できるようになったから」、5割程度は「頭の中で理解していても、行動に移せず、実際に動ける力は別物なのだと理解したから」、「実際には、まだまだスムーズに敬語を話せないから」な

どが挙げられていた。

「授業を通じて自主的に学ぶ力が身についたと考えますか。」という質問には、「自分には難しすぎて、まだまだ身につけてはいないと思った」という少数意見があったものの、9割以上の受講学生は「授業で学んだ知識を忘れることなく、今後も実践して身につけていきたいと思うので、自主性は身についたと思う」、「今まで意識していなかった自分の言葉遣いを意識するようになりました」など、前向きな内容を記述していた。

6. おわりに

以上、初年次学生を対象として筆者が担当した、2024（令和6）年度前期必修科目「キャリアデザインⅠ」において、協働評価学修を含んだ経験学修サイクルを実践し、事前・事後自己評価、および、事前・事後記述式アンケート調査により受講学生に「エージェンシー」が身に付くか検証したところ、一定の効果が認められ、協働評価学修を含んだ経験学修サイクル実践の可能性が示唆された。今後もこのような調査を継続的に実施し、より多くの事例を集め、分析し、結果を一般化させ、高等教育機関におけるキャリア教育開発に貢献することができればと考えている。

引用・参考文献

- (1) OECD Future of Education and Skills 2030/Teaching and learning/Learning /Student Agency にある英文を筆者が和訳した。(https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/). 2024. 10. 30 取得.
- (2) OECD Future of Education and Skills 2030 Concept Note © OECD 2019 にある英文を、筆者が和訳した。(https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/Student_Agency_for_2030_concept_note.pdf). 2024. 10. 30 取得.
- (3) OECD Future of Education and Skills 2030 Concept Note © OECD 2019 (https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/ student-agency/Student_Agency_for_2030_concept_note.pdf). 2024. 10. 30 取得
- (4) OECD Future of Education and Skills 2030 (https://www.oecd.org/en/about/projects/future-of-education-and-skills-2030.html#strand1). 2024. 10. 30 取得
- (5) 社会人基礎力 (METI/ 経済産業省) (https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/). 2024. 10. 30 取得